

平成 30 年度実施「大山の自然環境の保全に関するアンケート」集計結果概要

1. 調査概要

目的：大山登山者の大山の自然環境保全、トイレ問題の解決、費用負担に関する意向調査

調査実施者：環境省・鳥取県・大山町・甲南大学・北海道大学・京都大学

調査期間：2018 年 9 月下旬～11 月下旬

調査方法：休日に人員を配置して現地配布（景品のハガキ付き）、郵送にて回収

回収率：1,000 部配布し、444 部回収（回収率 44.4%）

2. 調査結果

(1) 属性

性別：男性 56%・女性 42%、年齢：30 代 13%・40 代 24%・50 代 35%・60 代 17%・その他 11%

居住地：鳥取県 19%・その他 81%、訪問経験：はじめて 4 割：リピーター 6 割

(2) 登山利用時の満足度（7 段階評価の上位 3 段階）

- ・「登山道までのアクセス（84%）」「登山道整備（77%）」「登山口周辺の施設整備（77%）」
「案内標識整備（68%）」の一方で、「トイレの整備（44%）」で満足度が最も低い。

(3) 大山のトイレ事情（維持管理コストを含む）を説明した上でのトイレ問題に対する認識

利用したトイレ：1 位 大山頂上避難小屋（38%利用）

2 位 下山駐車場（28%利用）

3 位 南光河原駐車場（20%利用）、大山ナショナルパークセンター（20%利用）

大山のトイレ問題に関する認識：知っていた・聞いたことがある（43%）

トイレ問題の重要性（5 段階）：極めて重大・やや重大で 95%

携帯トイレ使用経験：使用経験ありは 12%

携帯トイレの使用可否（通常トイレ混雑時を含む）：83%が使用可能と回答※

※使用に積極的でない回答者は使用経験がないことと持ち運びを不安視

携帯トイレのみしか利用できない場合の同意意向：87%が同意

山頂トイレ維持に加えて携帯トイレを推進した方がよいか：72%が同意

3. トイレ問題解決を含む大山の環境保全に対する支払意思額

調査方法：環境経済学で環境の価値評価に用いられているコンジョイント分析で評価

調査内容：「山頂トイレ維持管理」「携帯トイレ処理」「植生保護」「登山道補修」の 4 つの課題対応と
「登山者の負担金」の組み合わせで意向を調査し、支払意思額を集計

調査結果：課題対応の内容に関わらず対策実施に約 2901 円の支払意思額

山頂トイレ維持管理に約 1690 円の支払意思額

※一般的な傾向として、実際に支払う額は回答額の 3 分の 1 とも言われている。また、携帯トイレ運用に特化した支払意思額は集計できていない。